

株式会社サミーネットワークス

第11期 報告書

2009年4月1日から2010年3月31日まで

ネットワークを通じて、
世の中に

“わっ”
を提供する

ガールズデコ



uchico



サミー777タウン



777タウンドットネット

予想ネット



au one おこづかい



 **Sammy NetWorks**

お客様の **声** をカタチに!!

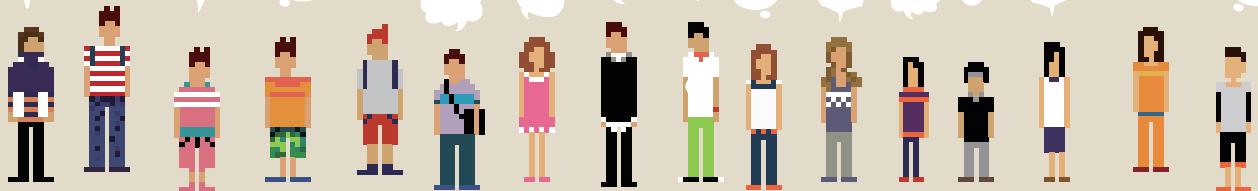
すっかり
ハマっちゃってます☆
友達にも
教えてあげよう♪

わくわく☆
キター——(v)——!!!
こういうの待ってました!!

こんなのあるんだ～
知らなかった!

このサービスは……
すごい!!
ケータイ界の
革命やあ!!

私の
お気に入りです☆
今日も
チェックチェック♪



ネットワークを通じて、 世の中に“わっ!!”を提供する



アミューズメントオンライン事業

PCをプラットフォームとして、オンラインのバチスロ・パチンコゲームを中心としたサービスを展開しております。



アミューズメントモバイル事業

携帯電話をプラットフォームとして、バチスロ・パチンコゲームや各種コンテンツの配信サービスを展開しております。



ポイントメディア事業

インターネット上でユーザーが各種サービスを利用することでポイントを獲得できるポイントサービスを運営しております。

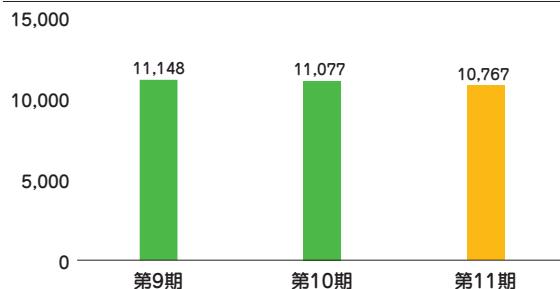


その他の事業

主にモバイル領域において、着メロ等の音楽サービスやメール関連サービスを展開しております。

○ 連結決算ハイライト

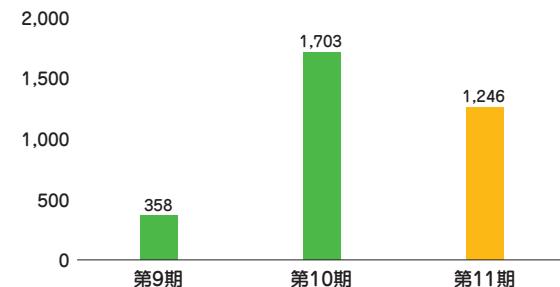
● 売上高 (単位：百万円)



● 経常利益 (単位：百万円)



● 当期純利益 (単位：百万円)



株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別なるご支援を賜り、誠にありがとうございます。と

当社は「ネットワークを通じて、世の中に“わっ!!”を提供する」をコーポレートスローガンとし、「喜び」「楽しみ」「感動」を感じていただける様々なサービスを提供してまいりました。

景気回復の兆しが芽生えた環境の中、2010年3月期は収益基盤の一層の強化とともに、新サービスの立上げを基本方針として以下の3つの重点課題に取り組みました。

第1は、子会社の株式会社リアラスによるポイントメディア事業「予想ネットモバイル」の本格事業化。2008年7月よりモード公式サイト「予想ネットmobile」、2008年10月にKDDIとの協業サイト「au oneおこづかい」としてスタートし、当期末会員数は両キャリア合わせて163万人と順調に推移してまいりました。しかしながら、本格事業化の寄与に期待した従量課金の本格展開が、期中でのシステム開発運用会社の変更により遅延したこと等により期待した成果をあげることができませんでした。

第2は、コア事業(アミューズメント事業)の更なる成長の強化。特に携帯向け「サミー777タウン」においては、ビジネスモデルの転換として「従量課金」を8月に開始し、ゲーム内で使えるアイテム・アバターの追加、各種イベントに注力したことにより、近年の会員数減少に伴う業績の下方トレンドを上方トレンドに変化させることができました。

第3は、新たなサービスを来期事業化できる目処をつける。ターゲットを中高生に特化させた無料コミュニティサイト「uchico(ウチコ)」、ターゲットを10代後半から20代の“特徴ある女性”としたきせかえ分野の携帯電話向け無料サービス「ガールズデコ」ともに会員数を順調に伸ばすことができたものの、来期事業化の目処をつけるまでには至りませんでした。

その結果、2010年3月期は、連結売上高107億67百万円(前期比2.8%減)、営業利益26億1百万円(前期比15.7%増)、経常利益26億26百万円(前期比15.5%増)となり、営業利益、経常利益につきましては、過去最高益となりました。

今後につきましては、コア事業である「アミューズメント事



業]をもう一段成長させる考えです。戦略的には、従量課金の更なる拡大、集客の強化、パチンコ・パチスロ以外のサービスの拡充・活性化を進めてまいります。

次に、ポイントメディア事業「予想ネットモバイル」を含めた新たなサービスを徹底的に深堀し、事業化の目処を立ててまいります。

2011年3月期の連結業績は、売上高130億円、営業利益31億円、経常利益31億円、当期純利益17億60百万円を見込んでおります。

株主の皆様への利益還元方針としましては、利益に応じた適正な配当を行うことを基本方針とし、今後の見通しなどを考慮しながら、中長期的に「連結配当性向20%」を目標に利益還元を行ってまいります。今後この水準を維持しつつ、更なる業績の拡大とともに一層充実した利益還元ができるよう努力いたします。

株主の皆様におかれましては、長期的な視点で当社の成長力にご期待いただき、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2010年6月

代表取締役社長 **大野政昭**

より突き抜けた成長を実現していくために ユーザーの視点からサービスの見直しを図ります。

Q 当期(2010年3月期)における取り組みと成果 について、全般的な状況からお聞かせください。

大野 当期における最重点課題は、子会社である株式会社リアラスがポイントメディア事業として展開している「予想ネットモバイル」を大きく飛躍させ、既存コア事業のアミューズメントオンライン事業・アミューズメントモバイル事業に続く、事業の3本目の柱として確立することでした。しかしながら、後述の通り「予想ネットモバイル」については、会員数を順調に拡大できたものの、業績面からは大幅な未達にとどまり、本格事業化には至りませんでした。

「予想ネットモバイル」の不発に代わって当期の業績を支えたのは、アミューズメントモバイル事業におけるビジネスモデル転換の奏功です。従量課金コンテンツの導入により、会員数の維持と増収増益に成功しました。

なお、当期はソリューション事業から撤退し、当社が保有する株式会社メディア・トラストの全株式を昨年12月に売却しました。厳しい市場環境の中で営業赤字が続き、当社グループにおけるシナジー効果の創出が困難となったことから決定したものです。この撤退に伴い、当期の連結業績は売上計画値を下回り、減収となりました。営業利益・経常利益ベースでは計画を超える増益を達成しましたが、当期純利益は子会社整理損の発生により減益となりました。

Q コア事業として好調に推移したアミューズメント事業の状況をご説明願います。

大野 「サミー777タウン」を展開するアミューズメントモバイル事業については、近年、月額課金会員数がピーク時の200万人から減少傾向にありましたが、当期は100万人を堅持しまし

た。これは主に昨年8月から実施した従量課金の導入が寄与したものです。ゲーム内で利用できるアイテムやアバターなどの従量課金コンテンツとコミュニティ機能を提供するという、アミューズメントオンライン事業の成功モデルをモバイルでも展開し、同時に下半期からのキラータイトルの投入によって、退会防止と収益拡大につなげました。

一方、「777タウンドットネット」を展開するアミューズメントオンライン事業も、新たなパチスロ・パチンコメーカーの参画やゲームセンター・カジノといったコンテンツを拡充し、引き続き成長を維持しました。その結果、売上高は計画に及ばないものの、有料会員数計画値の20万人を達成することができました。

Q 新たな成長の柱を目指した「予想ネットモバイル」 の状況はいかがでしたか？

大野 「予想ネットモバイル」については、当初の計画として会員数150万人の確保と、従量課金の開始による売上高7億円の達成を目指していました。会員数については、最終的に計画値を超えて160万人を突破したものの、アバターやコミュニティ、“やりこみ”ゲームなど従量課金コンテンツの投入がシステム開発運用会社の変更で大幅に遅延し、収益化を果たすことができませんでした。

今後は、「予想ネットモバイル」の成長を最重点課題から一旦外し、育成事業としての位置付けで取り組んでいきます。そして、株式会社リアラス全体の成長に向け、既存サービスのブラッシュアップと新サービスの投入を進めつつ、新たにソフトバンクを加えた3キャリア展開を本格化させていく考えです。

Q 事業化を目指している新規サービス「uchico」「ガールズデコ」の成長はいかがですか？

大野 全国の中高生を対象に、エデュテイメント(教育+娯楽)分野のモバイルサービスを提供する「uchico」は、会員数70万人を獲得し、昨年9月からはBtoBモデルでの本格的な営業活動(企業タイアップ広告、学校情報広告等)を開始しましたが、事業化の目処をつけるまでには至りませんでした。しかし、「uchico」のコーナーとして子供たちをトラブルから守るために携帯のマナーやルールを楽しく学べる「こころ部」に対する社外からの評価は非常に高く、7月には「モバイルプロジェクト・アワード2009優秀賞」(社団法人MCF主催)を受賞、12月には「第13回文化庁メディア芸術祭」において「マンガ部門審査委員会推薦作品」に選定されました。

また若い女性をターゲットとする、きせかえ分野のモバイルサービス「ガールズデコ」は、会員数95万人を獲得し、来期事業化に向けてゲームなどの従量課金を開始しましたが、現在のところ事業化の見通しは立っていません。

新規サービスについては、今後BtoB/BtoCモデルの再検討を含む戦略の見直しと、抜本的なコスト削減に取り組んでいきます。

Q 来期(2011年3月期)における重点テーマと見直しについてお聞かせください。

大野 本来であれば来期は、第2の創業期に向けて飛躍する「ホップ・ステップ・ジャンプ」の「ジャンプ」にあたる取り組みが重点テーマとなってきますが、今まで申しあげました通り、当期を「ステップ」とする新たな成長性を確立できなかったことから、来期は再度の「ステップ」として原点に立ち返り、ユーザーの視点から徹底的にサービスの見直しを図ります。

具体的には、コア事業であるアミューズメントオンライン事業・アミューズメントモバイル事業を新たな付加価値の創造と集客強化によって、もう一段成長させていく考えです。また、新規サービス分野をさらに深堀し、事業化の目処を立てていきます。そして、全てのサービスでユーザーニーズ調査を実施するなど、ものづくりの基本である“ユーザーの声”に耳を傾けることで、突き抜けた成長につながる競争力を確保してまいります。

来期の連結業績については、売上高130億円、営業利益31億円、経常利益31億円、当期純利益17億60百万円を見込んでおります。

なお当期の期末配当は、前期同様に1株当たり6,000円(連結配当性向21.2%)とさせていただきます。今のところ来期についても同額の実施を予定しておりますが、業績の推移を鑑み、当社の配当方針である連結配当性向20%の利益還元目標に準じて実施していきたいと考えております。

株主の皆様におかれましては、引き続き一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



◎ 経営成績（連結）

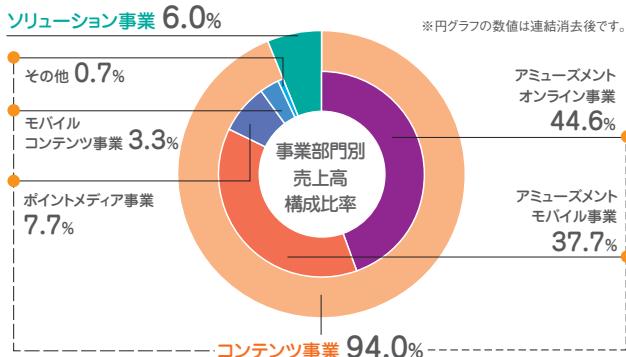
□ 全般の概況

当連結会計年度におけるわが国経済は、一昨年、秋以降の世界的な景気悪化の影響が残るなか、在庫調整の進展、政府による景気対策が功を奏して持ち直しの兆しがみられました。しかしながら、企業の設備投資の減退、雇用・所得環境の悪化が続いたことから、依然厳しさを脱しきれない状況で推移しました。

当社グループを取り巻く環境としましては、日本国内における携帯電話等の加入者数は、2010年3月末時点で11,629万件(前期末比3.8%増)であり、そのうちインターネット接続が可能な携帯電話の加入者数は11,218万件(前期末比4.4%増)と携帯電話機等の96.4%を占めており、PC・携帯電話ともにインターネットの普及率は微増ながらも堅調に推移しております。(※1)

このような状況のもと当社グループでは、当期の重点課題と掲げる、①「予想ネットモバイル」を飛躍させ、事業の3本柱を確立する。※ポイントメディア事業 ②コア事業の更なる成長を図る。※アミューズメントオンライン事業・アミューズメントモバイル事業 ③新たなサービスを来期事業化できる目処をつける。※新規事業に注力し、事業活動を行ってまいりました。

以上の結果、当期における連結業績は、売上高107億67百



万円(前期比2.8%減)、営業利益26億1百万円(前期比15.7%増)、経常利益26億26百万円(前期比15.5%増)、当期純利益12億46百万円(前期比26.8%減)となりました。

(※1) 社団法人電気通信事業者協会調べ

□ セグメント別の概況

コンテンツ事業

● アミューズメントオンライン事業

PC向けパチスロ・パチンコオンラインゲーム「777タウンットネット」において、パチスロ・パチンコゲームの拡充や各種イベントの強化、また麻雀・カジノゲームに次ぐ、「ゲームセンター」や「競輪タウン」等のパチスロ・パチンコユーザーに親和性の高いと考えられるサービスにも注力してまいりました。

この結果、アミューズメントオンライン事業の売上高は48億6百万円(前期比12.6%増)となりました。



● アミューズメントモバイル事業

携帯電話向けパチスロ・パチンコゲームサイト「サミー777タウン」においては、ビジネスモデルの転換として「従量課金」を8月に開始しました。PC向け「777タウンットネット」で培った従量課金の成功例を移植し、ゲーム内で利用できるアバターやアイテムの投入、創意工夫を凝らした各種イベント等に注力した結果、近年の会員数減少に伴う業績の下方トレンドを上方トレンドに変化させるまでになりました。

この結果、アミューズメントモバイル事業の売上高は40億59百万円(前期比1.6%増)となりました。



● ポイントメディア事業(※2)

「予想ネットモバイル」においては、主にKDDIグループとの協業サイト「au one おこづかい」において、会員拡大を図るべく積極的なプロモーションを進めるとともに、収益の柱となる従量課金開始のための準備として、ゲーム並びに掲示板機能の拡充等、サイトの活性化に注力してまいりました。しかしながら、本格事業化の寄与に期待した従量課金の本格展開が、期中でのシステム開発運用会社の変更により遅延したこと等により、期待した成果をあげることができませんでした。



この結果、ポイントメディア事業の売上高は8億30百万円(前期比24.6%増)となりました。

(※2) インターネット上でショッピングや資料請求を行うことで各種ポイントを貯めたり、ゲームや予想問題で遊ぶことができる「予想ネット」を中心としたサービスの運営を行っております。

その他の事業

● モバイルコンテンツ事業

モバイルコンテンツ事業につきましては、着信メロディサービス「プラチナメロディ」を中心とする携帯電話向けサービスでは、着信メロディ市場における飽和傾向の影響を受け、会員数は減少傾向で推移いたしました。積極的なコスト構造の見直しなどの施策により、収益性の向上に努めてまいりました。

この結果、モバイルコンテンツ事業の売上高は3億50百万円(前期比27.0%減)となりました。

● 新規事業

新規事業につきましては、エデュテイメント(※3)分野ときせかえ(※4)分野の2分野で展開しております。

まず全国の中高生(※5)をメインターゲットとする、エデュテイメント分野の携帯電話向けサービス「uchico」においては、会員数70万人以上を獲得しました。また9月にはBtoBモデル(※6)での本格的な営業活動(企業とのタイアップ広告、学校情報広告等)を開始しましたが、営業展開に時間を要した結果、事業化の目処をつけるまでには至りませんでした。



次にきせかえ分野では、10代後半から20代の女性向け携帯電話無料サービス「姫デコJewel」(4月)の立ち上げに続き、「黒デコGlam」、「Gal deco Lush」、「Goth deco Noir」を順次立ち上げ、18才~20代の“特徴のある”女性を中心に約95万人を獲得しました。来期事業化に向けてBtoCモデル(※7)により、「恋愛コミック」や「恋愛診断・セラピー」等の従量課金を開始しましたが、事業化の目処をつけるまでには至りませんでした。

コンテンツ事業の売上高としましては、101億23百万円(前期比7.5%増)、営業利益27億47百万円(前期比17.3%増)となりました。

(※3) 教育(エデュケーション)と娯楽(エンターテイメント)の造語。

(※4) 携帯電話のメニュー画面のアイコンなどがカスタマイズできるサービス。

(※5) 2008年度の中学生、高校生の生徒数は695万人(出所：文部科学省)

(※6) 企業間の取引 (※7) 企業と消費者間の取引

ソリューション事業

ソリューション事業におきましては、IT関連産業を取り巻く市場環境が厳しく推移する見込みであること、並びに今後の当社グループとのシナジー効果も見込むことが困難になったことなどを総合的に勘案し、当社保有の株式会社メディア・トラストの全株式を2009年12月16日に売却し、当該事業から撤退しました。

この結果、ソリューション事業の売上高は6億56百万円(前期比61.4%減)、営業損失1億46百万円(前期は営業損失95百万円)となりました。

○ 連結財務諸表

○ 連結貸借対照表

(単位：千円)

科目	当連結会計年度 2010年3月31日現在	前連結会計年度 2009年3月31日現在
● 資産の部		
流動資産	9,855,810	8,920,550
現金及び預金	7,259,948	6,041,380
売掛金	2,348,101	2,410,680
商品	2,975	16,047
繰延税金資産	75,661	121,307
その他	169,124	331,134
固定資産	2,649,486	3,250,305
有形固定資産	99,545	160,492
無形固定資産	1,630,975	2,142,578
投資その他の資産	918,965	947,233
資産合計	12,505,297	12,170,855
● 負債の部		
流動負債	1,822,152	2,305,221
買掛金	603,018	747,414
未払金	473,213	289,721
未払法人税等	312,253	680,403
賞与引当金	114,128	135,991
役員賞与引当金	—	120,000
その他	319,538	331,690
固定負債	111,904	256,510
負債合計	1,934,057	2,561,731
● 純資産の部		
株主資本	10,571,270	9,599,091
資本金	2,330,275	2,330,275
資本剰余金	2,974,810	2,974,810
利益剰余金	6,029,527	5,047,108
自己株式	△763,344	△753,103
評価・換算差額等	△30	△4,973
少数株主持分	—	15,005
純資産合計	10,571,239	9,609,123
負債純資産合計	12,505,297	12,170,855

○ 連結損益計算書

(単位：千円)

科目	当連結会計年度 2009年4月 1日から 2010年3月31日まで	前連結会計年度 2008年4月 1日から 2009年3月31日まで
売上高	10,767,496	11,077,002
売上原価	5,118,087	5,695,897
売上総利益	5,649,409	5,381,105
販売費及び一般管理費	3,048,380	3,133,838
営業利益	2,601,029	2,247,267
営業外収益	30,334	43,345
営業外費用	4,715	16,433
経常利益	2,626,647	2,274,179
特別利益	44,569	10,347
特別損失	747,711	62,664
税金等調整前当期純利益	1,923,505	2,221,861
法人税、住民税及び事業税	647,433	695,817
法人税等調整額	44,154	△190,188
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△15,005	12,248
当期純利益	1,246,923	1,703,984

○ 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

科目	当連結会計年度 2009年4月 1日から 2010年3月31日まで	前連結会計年度 2008年4月 1日から 2009年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,594,618	4,136,408
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,100,114	△5,179,200
財務活動によるキャッシュ・フロー	△275,930	△102,953
現金及び現金同等物に係る換算差額	△5	△293
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	1,218,568	△1,146,039
現金及び現金同等物の期首残高	2,041,380	3,188,004
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	—	△584
現金及び現金同等物の期末残高	3,259,948	2,041,380

連結株主資本等変動計算書

(単位：千円)

当連結会計年度 2009年4月1日から 2010年3月31日まで	株主資本					評価・換算差額等			少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
2009年3月31日残高	2,330,275	2,974,810	5,047,108	△753,103	9,599,091	△106	△4,867	△4,973	15,005	9,609,123
連結会計年度中の変動額										
剰余金の配当			△264,504		△264,504					△264,504
当期純利益			1,246,923		1,246,923					1,246,923
自己株式の取得				△10,241	△10,241					△10,241
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額(純額)						76	4,867	4,943	△15,005	△10,061
連結会計年度中の変動額合計	—	—	982,419	△10,241	972,178	76	4,867	4,943	△15,005	962,116
2010年3月31日残高	2,330,275	2,974,810	6,029,527	△763,344	10,571,270	△30	—	△30	—	10,571,239

Check Point

連結貸借対照表

● 資産の部

資産合計は、前連結会計年度末に比べ3億3400万円増加し、125億500万円となりました。その主な増減は、現金及び預金の増加12億1800万円、仕掛品の減少2億2800万円のほか、連結子会社の売却及び償却によりのれんが6億円減少いたしました。

● 負債の部

負債合計は、前連結会計年度末に比べ6億2700万円減少し、19億3400万円となりました。その主な増減は、未払法人税等の減少3億6800万円、買掛金の減少1億4400万円、リース債務の減少1億4900万円などがありました。

● 純資産合計

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ9億6200万円増加し、105億7100万円となり、自己資本比率は5.7ポイント上昇し84.5%となりました。

連結損益計算書

● 売上高

当連結会計年度における売上高は、前期比2.8%減の107億6700万円となりました。これは主にソリューション事業からの撤退による影響があげられます。

● 営業利益・経常利益・当期純利益

当連結会計年度における営業利益は前期比15.7%増の26億1000万円、経常利益は前期比15.5%増の26億2600万円、当期純利益は前期比26.8%減の12億4600万円となりました。営業利益、経常利益の増加要因は、AMオンライン事業やAMモバイル事業が順調に推移したこと、業務改善等による原価と販管費の低減が寄与しております。

当期純利益の減少要因は、前連結会計年度の当期純利益には子会社を吸収合併したことによる、繰越欠損金(65200万円)の引継ぎを含んでいる影響があげられます。

連結キャッシュ・フロー計算書

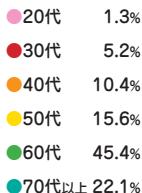
当連結会計年度末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ12億1800万円増加し、32億5900万円となりました。

株主スクエア

アンケートのご報告

前回の中間報告書にて実施いたしました「株主アンケート」の集計結果が整いましたので、主なデータにつきご報告いたします。アンケートに際しましては、多くの皆様のご協力を賜りましたことを、感謝申し上げます。

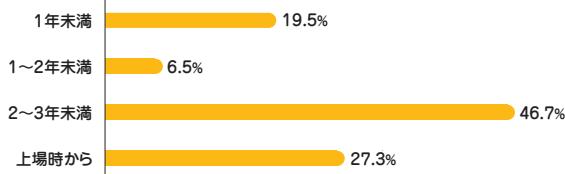
● アンケート回答者様の世代別内訳



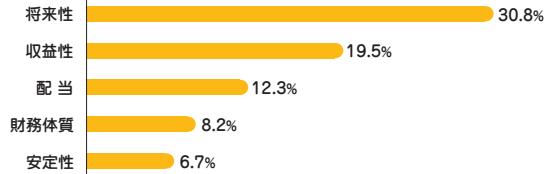
● アンケート回答者様の性別内訳



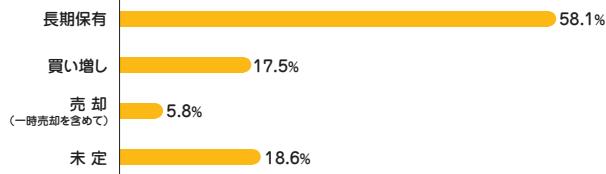
Q 当社株式保有期間



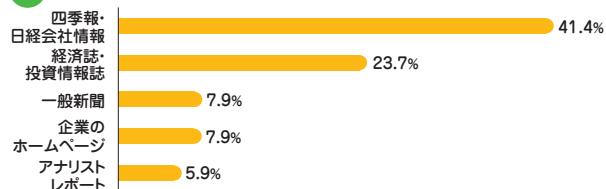
Q 当社株式購入理由 (複数回答・上位5位)



Q 保有する当社株式の今後の方針



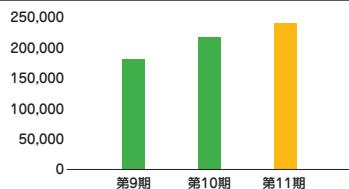
Q 参考とする投資情報 (複数回答・上位5位)



一株当たり情報

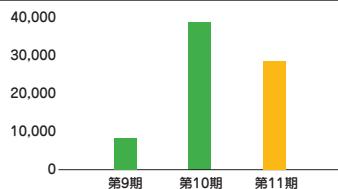
● 一株当たり純資産

(単位:円)



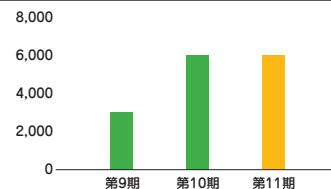
● 一株当たり当期純利益

(単位:円)



● 一株当たり配当額

(単位:円)



□ 株式情報 (2010年3月31日現在)

● 株式の状況

発行可能株式総数	120,000株
発行済株式総数	45,306株
株主数	2,601名

● 大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
セガサミーホールディングス株式会社	24,804	54.75
大野 政昭	1,372	3.03
株式会社サミーネットワークス	1,222	2.70
日本証券金融株式会社	639	1.41
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	496	1.09
倉垣 英男	432	0.95
森 貴義	400	0.88
メロンバンク エヌエー トリーテイ クライアント オムニバス	400	0.88
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	361	0.80
野村信託銀行株式会社(投信口)	322	0.71

● 株式分布状況

● 金融機関	4.09%
● 金融商品取引業者	1.68%
● その他の法人	58.35%
● 自己名義株式	2.70%
● 個人・その他	27.43%
● 外国法人等	5.74%



● 1株以上	7.61%
● 5株以上	3.45%
● 10株以上	8.34%
● 50株以上	3.79%
● 100株以上	14.91%
● 500株以上	1.41%
● 1,000株以上	5.73%
● 10,000株以上	54.75%



□ 株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
 期末配当金 3月31日
 受領株主確定日

中間配当を行う場合は9月30日
 毎年6月

定時株主総会 毎年6月
 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
 特別口座管理機関

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 〒137-8081
 東京都江東区東砂7丁目10番11号
 TEL 0120—232—711(通話料無料)

上場取引所 東京証券取引所

公告掲載URL <http://www.sammy-net.jp/announcement.html>

(ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公告いたします。)

お知らせ

1. 株券電子化によるご注意

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取扱いきませんのでご注意ください。
- 配当金の口座振込のご指定につきましても、お手続きは配当金振込指定書を各口座管理機関を経由してお届けいただくこととなりましたので、各口座管理機関(証券会社等)にお問合せください。
- 支払期間経過後の未受領の配当金のご照会につきましては、上記の三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部までお問合せください。

2. 配当金計算書について

本年から、配当金の口座振込をご指定の方と同様に、「配当金領収証」により配当金をお受取りになられる株主様宛にも「配当金計算書」を同封いたしております。配当金をお受取りになった後の配当金額のご確認や確定申告の資料としてご利用いただけます。

□ 会社概要 (2010年3月31日現在)

● 会社情報

● 会社名	株式会社サミーネットワークス Sammy NetWorks Co., Ltd.
● 本社所在地	〒107-0062 東京都港区南青山3丁目1番31号 NBF南青山ビル3階
● 設立	2000年3月1日
● 資本金	23億30百万円
● 事業内容	携帯電話、PCへのゲーム関連コンテンツ、音楽 関連コンテンツの配信サービス、インターネット 広告事業
● 監査法人	あずさ監査法人
● 従業員数	連結162名、単体126名

● 役員

取締役会長	里見 治	執行役員	倉垣 英男
代表取締役社長	大野 政昭	執行役員	佐藤 慎吾
取締役副社長	崎野 清文	執行役員	小口 剛
専務取締役	石倉 博	執行役員	三井 友樹
取締役	大山 太郎		
取締役	西田 浩		
常勤監査役	河村 芳隆		
監査役	榎本 峰夫		
監査役	嘉指 富雄		

● 主な連結子会社

株式会社リアラス

ホームページのご案内



サミーネットワークスに関する詳しい情報はインターネットでご覧いただけます。または、IRメールにて最新情報を配信しております。ぜひ、この機会にご登録ください。

● ホームページアドレス
<http://www.sammy-net.jp>

● IRメール配信
<http://www.sammy-net.jp/ir/mail/>

パチスロ交響詩篇エウレカセブン(777タウンドットネット・サミー777タウン)
©2005 BONES/Project EUREKA・MBS
©Sammy ©2009 NBGI

ばちんこCR蒼天の拳(777タウンドットネット)
©原哲夫・武論尊2001,著作権許諾証PGE-119
©Sammy

ばちんこCR蒼天の拳(サミー777タウン)
©原哲夫・武論尊2001,著作権許諾証PGF-119
©Sammy

今後の見直しに関する注意事項

本誌の記載内容のうち、当社の将来に関する見直しおよび計画などの歴史的事実でないものについては将来予測であり、現在入手可能な情報から得られた会社の判断に基づいています。これらの将来予測には、リスクや不確定な要素が含まれており、実際の成果や業績などは、記載の見直しとは大きく異なる可能性があります。

※ 本冊子は環境に配慮し、再生紙と大豆油インクを使用しています。